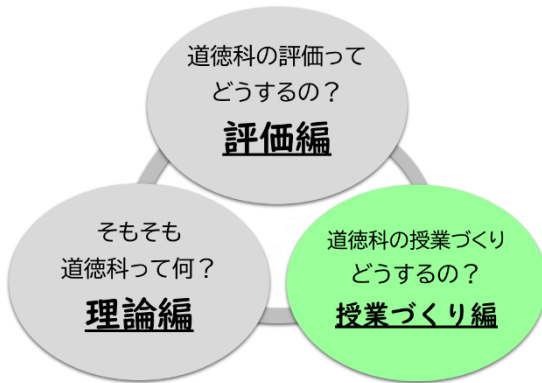


# 道徳科の授業づくり どうするの？ 【授業づくり編】

「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）



- ◇ 授業プランづくりを通して、道徳科の特質を生かした授業づくりがわかります。
- ◇ 子どもの発言を想定し、ねらいに照らして問い返し等を考えることで、対話で深める授業につなげることができます。

【準備物】・研修資料 ・ワークシート ・使用したい教材  
・学習指導要領解説（特別の教科 道徳編）



## プログラム②の概要

このマークは「子どもの学びの姿」をもとにして考えるポイントです。

- ◆ 対話で深める授業のために
  - ・「子どもの学びの姿」のイメージ
  - ・中心発問と、想定される子どもの発言等の検討
- ◆ 道徳科における「対話的な学び」
  - ・対話で深めるポイント
  - ・補助発問や問い返しと想定される子どもの発言等の検討
- ◆ 基本発問、導入、終末の検討

## 重要!

本プログラムでは、**振り返りでどんな発言等が子ども達から表れるかをイメージし、そこから遡る形で授業づくり**をしていきます。

そのため、ワークシートの①から⑦の順に考えていきます。ねらいに照らして「子どもの学びの姿」をイメージすることで、ねらいから逸れることなく中心発問の検討に入ることができます。

## ワークシート

① 基本発問 （ねらいに照らして）		③ 中心発問 （ねらいに照らして）	② 補助発問 （ねらいに照らして）	⑤ 導入 （ねらいに照らして）
⑦ 終末	④ 補助発問 （ねらいに照らして）	⑥ 導入 （ねらいに照らして）	名前 （ ）	

## ヒント

下の例のような、学習指導要領解説を参考に、使用する教材の内容項目を考えましょう。

【参考】『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』(P40~41)

### 内容項目 B-(6) 親切、思いやり 指導の要点 ■ 第3学年及び第4学年

この段階においては、学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってくる。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思込みがちになることもこの時期の特徴と言われている。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。

指導に当たっては、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。

## Step 1 『子どもの学びの姿』のイメージ



進行役

「子どもの学びの姿」を具体的にイメージすることから始めます。  
この授業で、子ども達から新しい気付きや学びとして、どのような発言や振り返りの記述等が表れたら、ねらいに向かっているといえますか？  
ねらいを踏まえて考え、ワークシートに書きましょう。

ワークシートの①の欄

教材：「心と心のあく手」（出典：文部科学省『私たちの道徳3・4年』）

主題：本当の親切

内容項目：親切、思いやり B-(6)

【ねらい】

母の話を聞いて、はやとがとった行動について考えることを通して、単に手を差し伸べるだけではなく、時には温かく見守ることも思いやりの心の表れであることに気付き、相手の立場や状況をよく考えて親切にする道徳的心情を育む。

ポイント

道徳科のねらいは抽象的です。ねらいを具体的にイメージするために、子どもの学びの姿を考えます。例えば、「子どもから、どのような発言やつぶやきが表れるだろうか」というように、学びの姿としてイメージします。ねらいを具体的にイメージすることで、ねらいを明確にもった指導につなげることができます。

ヒント

子どもの実態把握や発達の段階、『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の内容項目の記述を踏まえ、本時の「子どもの学びの姿」を具体的な子どもの言葉で想定するよう、参加者にアドバイスしましょう。



進行役

「子どもの学びの姿」を互いに読み比べましょう。  
新たに気付いたことがあれば、自身のワークシートに書き足しておきましょう。

ポイント

ここでは、ねらいを踏まえた記述になっているかがポイントです。実際に子ども達がどこまで書けるかということも気になりますが、子ども達の実態を踏まえ、「こんなことを書くかな」「こんなことを書いてほしい」と、「子どもの学びの姿」を子どもの言葉（記述）に置き換えてイメージすることが大切です。

ヒント

学びを深める学習活動の視点から読み比べるようにアドバイスをしましょう。内容項目を確認した上で再考を促してもよいでしょう。

生き方についての考えを深めるためには、  
自己を見つめること（主体的であること）  
物事を多面的・多角的に考えること（対話的であること）が必要です。

### 「子どもの学びの姿」の具体例

- ・相手の気持ちを考えることが大切だと気付きました。
- ・相手が何を必要としているか考えて行動したいな。
- ・相手の思いを想像して、時には見守ること、気持ちによりそうことを大切にしたいな。



## Step 2 子ども達と共に考えたい場面の検討



この教材の中で、子ども達と共に考えたいと思う場面はどこでしょうか？

心がぐっと動いたところがどこかを考えても良いでしょう。

進行役

ポイント

生き方についての考えを深めるためには、  
自己を見つめること（主体的であること）  
物事を多面的・多角的に考えること（対話的  
であること）が必要です。  
これらは、**学びを深める学習活動の視点**です。

ヒント

まずは参加者自身の心が動いた部  
分を意識するように伝えましょう。  
進行役が範読し、それを聞きながら、教材に印を  
つけてもらう方法もあります。考えたい場面が発問  
したい場面につながります。

### 具体例:子ども達と共に考えたいと思う場面



- ・おばあさんの後ろをそっと歩いているところ
- ・おばあさんが無事に家に着いたところ
- ・「心と心のあく手」をしたような気持ちになったところ

## Step 3 中心発問と、想定される子どもの発言の検討



Step1 で書いたような振り返りにつながるためには、どのよう  
な中心発問が考えられるでしょうか。

ワークシートの②の欄

その中心発問に対して、どのような子どもの発言等が想定され  
ますか？ 子どもの言葉として具体的に書き出しましょう。

ワークシートの③の欄

進行役

一人一人の子どもの発言等を具体的にイメージできていますか？

ポイント

具体的に「**子どもの言葉として想定する**」  
ことは、**中心発問の検討**につながります。  
子どもの発言等を想定することで、ねらいに  
迫ることができる中心発問か、吟味することが  
できます。

ヒント

共に考えたい場面の検討と、中心発問に対する  
子どもの発言等を具体的に想定することは、「ねら  
いに照らしてどこまで学びを深めることができ  
るかわからない」、「中心発問をどうしたらいいか  
わからない」という悩みに応えるヒントになります。

- 具体例** 中心発問例① ぼくはどうしましたか。  
… 教材の中から答えを探す問いになります。
- 中心発問例② これからどうしたらいいでしょう？  
… 行動を問うのは道徳科に適していません。
- 中心発問例③ はやとはどんなことを考えていたのでしょうか。  
… この3つの中では**最も心を問う発問**になっています。



Step3の続き



進行役

各自が書いた「中心発問」と「想定される子どもの発言」等を見比べて検討し、グループ（もしくは全体）で、中心発問を仮に1つ設定して進めましょう。

ポイント

「共に考えたい場面」が同じでも、問い方が違えば「想定される子どもの発言」も違ってきます。**子ども達の多様な意見を引き出せるような中心発問**を考えることが大切です。

ヒント

子どもの心が表れた発言を具体的にイメージすることが、対話で深める問い返し等につながります。ねらいに照らして、子どもの発言内容を具体的にイメージするよう参加者にアドバイスしましょう。



具体例

- ・どう考えたのでしょうか？
- ・どんな気持ちでしょうか？
- ・どうしたいと思っているのでしょうか？



進行役

設定した中心発問に対して「想定される子どもの発言」を書いていきましょう。

具体例: 中心発問例に対する「想定される子どもの発言」

- ・おばあさん、がんばって。応援しているからね。
- ・何かあったらぼくが助けるよ。見守っているからね。
- ・ゆっくりあわてないでね。おばあさんのことが気になるな……。



Step 4 道徳科における「対話的な学び」



進行役

対話で深めるためのポイントは何か。

ポイント

子ども達が、多様な感じ方、考え方を出し合い、自己の生き方について考えを深めるために、**対話で深めていくことが大切**になります。

ヒント

「対話的な学び」とは、互いに考えや意見を出し合う相互のやり取りを通して、**自己の生き方について考えを深めようとするプロセス**です。

重要!

- ・子どもの発言を「受容」する。  
→「受容」は「聴く」ことから始まります。
- ・中心発問の場面で「問い返し」をする。

具体例「受容」

- ・なるほど
- ・確かに
- ・そうか
- ・そう考えたんだね

具体例「問い返し」

- ・〇〇について詳しく教えてくださいませんか？
- ・〇〇とはどういうことかな？
- ・どうして〇〇と思ったのかな？
- ・“やさしい”ってどういうこと？



実践事例の授業映像を視聴し、具体的なイメージを持つことも有効です。右の二次元コードは、道徳教育アーカイブ（文部科学省）のリンク先です。  
URL: <https://doutoku.mext.go.jp/>





## Step 5 対話で深めるための補助発問や問い返しと

### 想定される子どもの発言の検討



進行役

ねらいに向かうためには、「想定される子どもの発言等」に対して、どのような補助発問や問い返しが考えられるでしょうか。

ワークシートの④の欄

メモ

中心発問の場面だけを、授業者役と児童生徒役に分かれてミニ模擬授業をしてみることも有効です。補助発問や問い返しの吟味や、中心発問の再検討につながります。

ポイント

- ・問い返しによって、発言の意図を明確化させたり、考えを深めたり広げたりできることを確認しましょう。
- ・子どもの発言に対して、教員が即興的に補助発問や問い返しをすることもありますが、子どもの発言を考えると併せて事前に想定しておくことが大切です。

#### 具体例 【想定される子どもの発言】

- ・おばあちゃんに気付かれないようにそっとついていこう。
- ・何かあったら心配だから見届けよう。



- ・おばあさんの自分で歩きたいという思いを大切にしたい。
- ・おばあさんの様子を見ながら、本当にしてほしいことをしたい。

#### 【補助発問や問い返し】

「どうしてそっとついていったのかな。」  
「お母さんとの約束があるな帰るのもいいんじゃない？」

## Step 6 基本発問、導入、終末の検討



進行役

中心発問に至るまでに、何を問いますか。

ワークシートの⑤の欄

ポイント

- ・教材理解だけを意図した発問にならないようにしましょう。
- ・中心発問までの基本発問を精選しテンポよく進めましょう。

#### 基本発問の具体例

- ・おばあさんに断られた時、ぼくはどんな気持ちだっただろう。
- ・おばあさんはどうして断ったのかな？

導入を検討しましょう。

ワークシートの⑥の欄

ポイント

学習への意欲付けとなるような導入、主題や道徳的価値に関する内容につながる導入が良いでしょう。

#### 導入の具体例

- ・みんなが考える”思いやり”って？
- ・この教材を読んでどんなことを感じましたか？



進行役

終末ではどのような指導を意識しますか。

ワークシートの⑦の欄

ポイント

- ・終末では、説諭や価値の押しつけにならないよう認め、励ます姿勢を大切にしましょう。
- ・学んだことを振り返り、自分を見つめる時間を確保しましょう。

#### 終末の具体例

- ・はやとさんから教えてもらった「本当の親切」とは何でしょう。
- ・これからどんなことを大切にしていきたいですか。  
(理由も)